

新党日本代表の田中康夫衆院議員に聞く

太陽光、風力に加えて 地熱発電の推進を国策に

慶應義塾大学講師の畏友・竹田恒泰さんが近著『原発はなぜ日本にふさわしくないのか』の中で、電気事業連合会が編纂した「電気事業便覧」最新版に基づいて、以下の数値を紹介しています。

2009年の商業発電の発電設備供給容量は、原子力・火力・水力を合わせて2億3700万キロワット。内訳は原子力が4900万キロワット、火力が1億4300万キロワット、水力が4500万キロワット。そして、この年最も電力消費量が高かった8月7日、1億5900万キロワットだったと。

火力と水力の供給容量は1

億8800万キロワットです。差し引き2900万キロワットの余裕。原発がすべて停止し、火力と水力だけだったとしても、その供給量に対する使用量は84%。16%も余裕があったのです。100万キロ



／知中なでか代
お野学な
す長在
や元大「なん
か・元橋いた
な作家。一書
たに書いた
文ら「新党
表を務める

ワットの標準的原発に換算すると29基分にあたります。

「でんき予報」の謎を6日の衆議院予算委員会で質問しました（新党日本HPに映像と議事録）。震災後に突如、発電実績資料をホームページから削除した東京電力は狼少年ではないかと。

明治天皇の玄孫にあたる竹田さんは、地域や家族という日本の伝統を護るべき保守派こそ脱・原発依存を唱えるべきだと述べていますが、同感です。

ウランをはじめ、核燃料製造過程の大半を海外に依存しているのに、エネルギー安全保障上の観点から原発は貴重だなんて、筋の悪い思想洗脳被曝です。

太陽光、風力に加えて火山列島の日本は、地熱発電を国策として一大転換すべきです。